

設問の解答編 Ver 3

あなたはいくつ〇がつけましたか。

ひとつでも〇がついたあなたのテニスは改良の必要があります。5つ以上の〇がついたあなたのテニスはこれから大きな変革が必要です。前のページに書いてある10項目の内容は30年以上前の「木のラケットの時代の技術」なのです。現在のテニス技術では全て否定されている事柄です。

ショックを受けた方もいらっしゃるかもしれませんが、こういう技術が日本のテニス界の中でいまだに堂々と歩いていることが、日本のテニスを世界のテニス界から取り残している元凶なのです。こういう古い技術や考え方がサークルや学校、企業のテニス部の中だけでなく、お金をいただいてテニスを「教える」テニススクールの中でさえ堂々と歩いています。自分が習ったとおりに人につたえることはとても簡単です。またコーチでも先輩のコーチから受け取ったマニュアル通りに何も考えずに指導することは簡単です。こうして世界が進歩していく中で、日本のテニス界には昔の技術や考え方を何の疑問ももたずに継承してきたし指導者たちがたくさんいるのです。

違うのはなぜって？

技術や考え方が変わったのはラケットが変わったからです。木のラケットの時代から比べるとラケットは飛躍的に進歩し、よく飛ぶようになり、とても軽くなりました。今の時代のラケットに比べて、木のラケットはボールが飛ばない、重い。そうしたラケットで思いっきり飛ばすためにはなるべくフラットに当てる必要がありました。ところが今、そのままの技術で打つとボールが飛びすぎて「アウト」します。どうですか？肝心なときにこそ、ボールが飛びすぎて、飛びすぎを抑えるためにラケットをこねるように扱う人いませんか？サーブが入らないといってセカンドサーブをそっと打ってしまう人いませんか？

世界のテニス技術の中では「フラットサーブ」なんて言葉は10年以上前に「死語」になっているのです。今でも「テニス誌、情報誌、技術誌」と銘打っている大手出版社の本でさえ、日本のテニスを「統括」する(財)日本テニス協会さえその古い技術や考え方の世界から抜け出すことが出来ていません。例として、世界テニス連盟(ITF)が進めているインターナショナル・テニス・ナンバーという評価システムの本書には球種は問わずに「ファースト・サーブ」「セカンド・サーブ」と書いてあります。ところが日本テニス協会が訳すと球種を限定して「フラット・サーブ」「スライス・サーブ」「スピン・サーブ」の3つになってしまいます。

日本語には「呪縛」という言葉があります。日本のテニス界のほとんどの指導者が、組織が、書籍が「木」の時代の呪縛から解放されていません。おそらくこのページに書かれていることを理解指導者は全体の5%ほどだと思います。あなたは自分から気がついて解放するしかありません。そうすれば、テニスはどんどん上達し、楽しくなります。サーブややスマッシュは不得意から得意になります。正しいテニスを始めましょう。

以上